

◀ クリックすると次の頁にジャンプします。

梅田博之 監修 / 松原孝俊 編

ハンドブック 韓国入門

第2版

〈まえがき全文〉

東方書店

まえがき

本書は、私たち日本人にとって大切な隣人の言葉である韓国語を、社会的・文化的バックグラウンドの理解のもとに、学習するための参考書として編纂されました。執筆は、それぞれの専門分野での第一級の研究者が分担しています。本書は、韓国の言語文化についての平易で楽しいビジュアルな解説書で、韓国語学習の補助教材や韓国文化の入門書として最適ですが、内容は学問的水準をいささかも落とすことなく、各章ともその分野の研究の最新の知見に基づいて論じられています。まさに、隣国韓国への正しい理解のために欠くことのできないハンドブックといえることができます。

近年、韓国に対する関心を持つ人々が増え、それに伴い韓国語を勉強する人々がだんだん増えてきたことは誠に喜ばしいことです。韓国語の専門学科を置く大学はまだ少ないけれども、多くの大学で第二外国語として韓国語を教えていますし、文化や歴史を学ぶコースも増えてきました。大学院レベルでの韓国研究の専門コースも拡充され、高等学校の韓国語教育も本格化しました。二〇〇二年からは大学入試センター試験の科目に韓国語が入りました。その他、ラジオ・テレビでの学習や、各地域でハンゲル愛好会など、草の根的な学習グループを作って勉強している人々も少なくありません。しかし、韓国での日本語教育の状況と比べると、日本の韓国語学習の現状はまだまだという感があります。国際交流基金の調査によれば韓国の日本語学習者数は世界第一位です。多くの大学に日文科、日語科、日語教育科などの専門学科があり、ほとんどの大学で第二

▶ トップページにもどる

外国語として日本語を教えています。高校でも日本語を教えているところが多いし、企業内教育や巷の学院で学ぶ人もたくさんいます。さらに、来日する留学生や研究者の数は比較にならないほど多く、その研究内容もまた多岐にわたり、かつ深度があります。よく貿易の不均衡が大きな問題になりますが、文化受容も相互主義を原則と考えるべきです。韓国のことわざで가는 말이 고와야 오는 말이 곱다(語りかける言葉が美しければ返ってくる言葉も美しい)というように相互主義の上に初めて交流や理解が成り立ちます。私たちは日韓の言語文化の学習の不均衡を正す努力をもつとすべきだと思います。歴史的に見ても、また現代の国際関係の中においても、日本にとって重要な地位を占める大切な隣人の言葉の学習に、私たち日本人はもつと関心を持つ必要があります。

言葉というものは、ただ単にコミュニケーションの道具であるにとどまらず、人間の思考活動と深い関わりがあります。人間は外界の事象を言葉を抛りどころにして分類し概念化しています。そしてどういう特徴に注目してどのよう分類し把握するかは言語ごとに違っています。例えば、兄弟姉妹を表すいい方は、日本語では年齢の上下と性別という二つの特徴によって四分割し、アニ・アネ・オトウト・イモウトの四つの単語で表すのに対し、韓国語ではキョウダイの中の年少者については性の区別をせず、弟も妹もトンセンという同じ単語で表し、年長者については本人の性別の他、話し手との性の異同も区別して弟の立場からは형(兄)・누나(姉)、妹の立場からは오빠(兄)・언니(姉)と、兄・姉を表す単語が話し手の性によって異なります。つまり、「同じ両親から生まれた一群の人間」の捉え方が言語によって違うわけです。異なる言語の話し手た

▶

ちはそれぞれ外界を異なった網の目を通して見ているということができます。だから言葉の意味を理解することは、その言葉の話し手がどのようにこの世界を捉えているかを理解することであり、彼らの考え方や文化の基礎を理解することに通じます。それ故、真の国際理解は相手の言語の学習の上でのみ成り立つといっても過言ではありません。言語の学習と研究の意義は誠に大きいものがあります。

二〇〇二年のワールドカップ日韓共同開催を契機に、隣国韓国に対する関心が高まりましたが、他方では、教科書問題や靖国問題で日韓の交流が揺れているのは残念なことです。私たちは、このような困難を克服して、日韓の真の相互理解に達するために、私たちができることからさまざまな努力を積み重ねていかなければなりません。ことに言語文化の学習は上述のような重要な意義があり、かつ私たちの意欲と努力さえあればすぐにでも始めることができます。この意味で、本書が韓国と韓国人に対する本格的な理解のために果たす役割はきわめて大きいものと信じます。

監修者 梅田 博之

▶ [トップページにもどる](#)